

研究に関するご協力のお願い

福島県立医科大学整形外科学講座では、本学倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。本学における診療情報の利用について、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2024年4月

福島県立医科大学 整形外科学講座 松本 嘉寛

研究課題名

Foot tapping test を用いた腰仙部神経障害における運動機能の定量的評価法の確立

研究期間

2024年4月 ~ 2026年10月

研究の目的・意義

腰部脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアに代表される、腰椎の神経疾患では、重症の場合手術を行いますが、手術後も足の力が回復しない人が多くいます。この問題を解決するために、我々は「足タッピングテスト」という新しい方法で、手術前後の足の動きを評価する研究を行っています。このテストは、足の筋力が落ちてきた時に早期に気づくのに役立つかもしれません。

この研究の目的は、手術を受けた人々の足の動きを、手術前と後のいくつかの時点で「足タッピングテスト」を使ってチェックします。このテストは、座った状態で、腰と膝を90°に屈曲してもらい、踵を地面につけた状態で、10秒の間につま先でできるだけ早く、多く地面をタップしてもらい、その数を計測する検査です。このテストを使って、手術の結果が良くなるかどうか、また、手術後の回復を助けるかどうかを調べるのが目的です。この研究の意義ですが、このテストを使った評価法がうまくいけば、手術が必要な時期を早めに知ることができ、患者さんの回復をより良くすることができるかもしれません。また、どの患者さんが手術後に良い結果を得られるかを予測する手助けにもなります。

研究対象となる方

先行研究である「胸腰椎の治療に関する臨床研究」(承認番号:2939)の参加した方のうち、2009年4月から2024年3月までに福島県立医科大学附属病院整形外科を受診した腰仙椎部神経障害の方が対象です。

研究の方法

診療で実施した「足タッピングテスト」の結果を収集して解析します。このテストは、椅子に座り、股関節、膝関節を90度屈曲し、踵を床につけた状態で、10秒の間に足関節を背屈する回数を両側で測定するという簡単なテストです。測定は手術の前日または当日と、術後3ヶ月、6ヶ月、1年、3年、5年に行います。これまでに得られたこのテストの結果を後方視的に振り返って解析し、様々な要因を持った患者さんにおいて比較することで、どのような患者さんでこのテストの結果が悪くなるかなどを検討して、手術時期の検討や、術後の経過の予測に用います。

試料・情報の利用を開始する予定日

2024年5月1日

研究組織

この研究の研究事務局は福島県立医科大学整形外科学講座であり、研究責任者は整形外科学講座松本嘉寛です。集められた情報の管理責任者は福島県立医科大学学長 竹之下誠一であり、それらの情報は福島県立医科大学整形外科学講座で利用し解析を行います。

他の機関などへの試料・情報の提供について

収集された情報の一部は、解析のため委託先である福島計算センター株式会社(代表取締役 河原田浩喜)へ提供します。解析に必要なアンケートのみを提供します。

この研究に関する問い合わせ

この研究に関して質問などございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象の方の個人情報や知的財産の保護などに支障がない範囲で、研究計画書や研究方法に関する資料が閲覧できます。

また、試料・情報がこの研究に利用されることについて、研究対象者ご本人または代理の方にご了承いただけない場合は、研究対象者とはせずに試料・情報の利用や提供はいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人または代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果がすでに医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合は、データを取り消すことは困難な場合もあります。

問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

公立大学法人福島県立医科大学医学部整形外科学講座 担当：小林洋

電話：024-547-1276 FAX：024-548-5505

e-mail：hiroshik@fmu.ac.jp